

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



多様性を実感した2年間

広島市市民局人権啓発部人権啓発課 多文化共生担当課長 河村 千鶴子

私は、2009年4月からクレアニューヨーク事務所に勤務しました。通常はまず1年間、東京のクレア本部での勤務を経て海外事務所に派遣されますが、私の場合は、イレギュラーですが、本部勤務を経ず、直接クレアニューヨーク事務所へ派遣されました。

印象深い 東日本大震災と福島原発事故に伴う対応

クレアニューヨーク事務所での主な担当は、アメリカ・カナダのJETAA支部の支援を含むJETプログラム関係の業務でした。国際交流課に配属されていた時に、JETプログラムを担当していましたが、JETAAの存在はクレアニューヨーク事務所に行って、初めて知りました。JETプログラム終了後も、自らの仕事の傍ら、JETAAの活動に熱心に取り組んでいるメンバーのバイタリティーには、感心しました。

最も印象に残っていることは、帰国が間近になった頃発生した東日本大震災と福島原発事故に伴う対応です。当時、日本にいたアメリカ・カナダのJET参加者については、クレアニューヨーク事務所が家族等からの問合せの窓口となりました。地震が起こった3月11日は金曜日だったと思いますが、その日の午後から、事務所にはJET参加者に関する電話やメールの連絡・問合せがどんどん増えていきました。11日の夜は、夜中近くまで残って対応し、深夜のマンハッタンを歩いて帰宅したことを覚えています。翌土曜・日曜も日本人職員は、ほぼ全員が出勤し、JET参加者の家族からの問合せ等に、精一杯英語で対応しました。クレア本部からは、宮城県や岩手県から発信されたJET参加者の安否確認や被災状況を伝えるメールが連日送られてきました。被災地の状況について、「建物の屋上に避難した人は、全員津波にさらわれた」と書かれているメールを読んだ時に

は、とてもショックで、自分まで被災したような、とても重苦しい気持ちになりました。地震発生後当分の間は、震災対応一色で過ごし、帰国前に見に行こうと、オペラのチケットを買っていたことも忘れていました。

多様な新しい環境に適応する経験

今振り返るとクレアニューヨーク事務所に勤務した2年間は、多様性に富んだ環境だった、と改めて感じます。

海外事務所では、多くの人が初めての海外勤務で、プライベート・仕事の両方で、新たな環境のもと、新しい同僚と新しい職務に取り組んでいくことになります。最近、日本でも多様性の尊重・受容に注目が高まっていますが、海外で多様な新しい環境に適応していくことは、貴重な経験になります。

また、国内の外国人住民数が増える中、自らが海外で「外国人」として生活することは、地域における多文化共生の実現を図るうえでも、有意義な経験になると思います。



ミシガン州ノヴァイ市役所ホールで開催したJETAA Great Lakesのメンバーとの協議。壁面上部には、「Novi Celebrates Diversity」と書かれている



インディア・パレードの様子。マンハッタンでは、頻繁にさまざまな民族、出身国のパレードが開催された

プロフィール

国際交流課、(公財)広島平和文化センター、広島市立大学事務局などを経て、2009年4月から2011年4月までクレアニューヨーク事務所勤務。帰国後は、広島平和記念資料館、生涯学習課などを経て、2018年4月から現職